



布施だより

《 正方形n個のとき、マッチ棒はいくつ? 》

数学科の授業風景です。主眼は【マッチの本数を求める式を考える場面で、数え方により色々な式ができることに気づき、文字が正方形の個数を表していることに着目して、式の表す意味が分かる】、そして学習課題は【正方形n個の時マッチ棒はいくつか?】でした。生徒は目をキラキラさせて、課題に取り組み、それぞれの説明を試みようとしています。教室のそこここから「どうやった??」のつぶやき声が聞こえてきます。変わらない数と変わっていく数に着目し、追究過程を説明したくて、仲間に分かってほしくて、教室中がウズウズしている様子が伝わってきます。

そんな中、ひとりの男子生徒が黒板の前で説明します。うまく説明しきれず(それはサポートしていた授業者の先生からも伝わってきて、その男子生徒にも伝わります。)しょんぼり席に戻ります。そして席に戻った彼は、仲間の説明からはずっと目を外し、自分だけの再検討の時間に入ります。ノートの自分の考え方の記述に、一文ずつ赤ペンで線を引きます。そう一文ずつ赤ペンで区切って線を引いたのです。レッドラインを引きながらどこにつまずきがあったのかを、自分で解決しようとしています。そして、熟考の70秒後、「そっか、そうだったんだ。」と静かに納得をつけました。その上で彼は黒板に目を移し、他の仲間が説明している考え方に淡々と戻っていきます。この時、彼は仲間に相談することを選択せず、先生に聞くことも選択せず、自分一人で解決に向かう追究方法を選択したのでした。

教室のその場で、その生徒の思考や追究に何が起きているのかを汲み取り、そこにサポートなり、難度を与えていくことこそが授業の面白みなのですが、このわずかの間の、その男子生徒の学びの変容が本当に嬉しかった瞬間でした。そして、きっと教室の至る所で、同様の追究がなされていたのでしょう。

そのあと、追究課題としての【n個の正三角形の時、 $1 + 2n$ (本)になることの方】・【n個の立方形の時、 $4 + 8n$ (本)になることの方】を記入する追究課題が、思考を飛躍させるジャンプ課題としてちゃんと用意され、生徒諸君はより困難な学問の高みに挑戦していきました。

素敵な、素敵な授業のひとつコマでした。



《夏の活躍 ～イラコン・東北信・通信大会～》

《美術部》【長野美術専門学校主催 イラコン！（イラストコンテスト）ながの2015】

～ テーマ／街をかざる Kawii（かわいい） ～

入選 田幸優吾さん



《野球》 1回戦 対更埴西○2-1 2回戦 対若穂●1-2

《男子バスケットボール部》 1回戦 対墨坂 ○64-39 2回戦 対飯綱○68-35

準決勝 対川中島●35-68 3位決定戦 対東部○54-38

→3位で県大会出場

《女子バスケットボール部》 1回戦 対三陽中●36-86

《男子バレーボール部》 1回戦 対坂城中○2-1 2回戦 対小布施●0-2

《女子バレーボール部》 1回戦 対中野平●0-2

《男子ソフトテニス部》【個人戦】 2回戦惜敗 早川智也さん・宇佐美泰成さんペア

1回戦惜敗 鵜澤啓太さん・宮之内健斗さんペア

1回戦惜敗 宮寄貴也さん・山口智司さんペア

【団体戦】 対附属長野○2-1 対若穂●1-2

《女子ソフトテニス部》【個人戦】 2回戦惜敗 赤澤瑠美さん・風間愛梨さんペア

2回戦惜敗 中村理来さん・伊藤ひかるさんペア

2回戦惜敗 永井翠さん・山下万実子さんペア

【団体戦】 対北部●0-3

《ソフトボール部》 1回戦目 対松代○1-0 対山ノ内○1 2-5

対高社●0-1

→2位で県大会出場

《柔道部》 【男子団体】 2位

【女子団体】 4位

【男子個人】 柳澤圭亮さん 4位 市川弥さん 4位 塚田琳司さん 2位

【女子個人】 依田夏さん 2位 平林笑佳さん 4位 →いずれも県大会出場

《剣道部》 【女子団体】 予選リーグ惜敗

【女子個人】 高橋舞さん 優勝

→県大会出場

《新体操》 西村玲歩さん 4位（16名中）

→県大会出場

《バドミントン部》

【団体】 1回戦 対若穂○2-1 2回戦 対更北○2-0 決勝 対南宮●1-2

→2位で県大会出場

【女子ダブルス】 岡村彩矢里さん・水上沙蘭さんペア

1回戦 戸上○2-0 2回戦 対墨坂●1-2 5, 6位決定戦へ
対北部○2-1 対小布施○2-0 →5位で県大会出場

【女子シングルス】太田捺美香さん

1回戦 対小布施○2-0 2回戦 対南宮○2-0

準決勝 対埴生 ○2-0 決勝 対南宮●2-1

→2位で県大会出場

田中愛さん

1回戦 対戸上○2-0 2回戦対南宮●0-2 5, 6位決定戦へ
対鬼無里○2-0 対犀陵●0-2

→6位で県大会出場

《水泳競技》 小林大真 さん

100平 1分17秒26 8位 200平 2分49秒12 6位 →県大会出場

《陸上》

土屋優輝さん 共通男子 200m 5位 (23,33)

(県通信大会)

戸谷泰生さん 共通走高跳 6位 (1m65)

山田千翔さん 共通走高跳 6位 (1m45)

大館杏土嶺さん 混成四種 8位 (1943点)

50th
2015

《 まど みちお さん ～校長講話より～ 》

29日(金)に校長講話がありました。西中学校校歌の作詞者である まど みちお さんに寄せての講話でした。～ ～ ～ ～ ～ ～



今年度、本校は開校50周年を迎えています。今年は本校にとって節目の時ですので、皆さんと一緒に校歌について考える時間をとりたいと思っていました。

本校の校歌を作詞してくださったのは、まどみちおさんです。篠ノ井西小学校の校歌もそうですね。まどさんは何千という詩や童謡を残された方ですが、その中でも、児童文学の学者さんや詩人の間で、とても高い評価を得ている作品が「ぞうさん」です。皆さんもロズさんだことがありますよね。

■ぞうさん／ぞうさん／おはなが ながいのね／そうよ／かあさんも ながいのよ
ぞうさん／ぞうさん／だあれが すきな／あのね／かあさんが すきなよ

まどさんは、「ぞうさん」の詩の解釈を次のように語っています。

■「この世の中で一番鼻の長いのがゾウで、ゾウのように鼻の長い動物は他にいません。バク

がいくら長いといってもゾウの比ではありません。この地球上の動物は、みんな鼻は長くないのです。」「そういう中で、『お鼻が長いのね』と言われたとしたら、それは『お前は変だね。』と言われたように受け取るのが普通だと思います。」

みなさんどうですか？ 他の人と違うことを指摘されたとき、それは時によっては、悪口のように感じる場合がありますよね。続けますね。

■「でも、このゾウは、いかにも嬉しそうに『そうよ、母さんも長いのよ。』と答えます。長いねと言ってくれたのが嬉しくてたまらないというように、ほめられたかのように。自分も長いだけでなく、自分の一番大好きな、この世で一番尊敬しているお母さんも長いのよと答えます。」「このゾウがこのように答えることができたのはなぜかという、それはこのゾウが、かねがねゾウとして生かされていることを素晴らしいことだと思い、幸せに思っているからです。誇りに思っているからです。」「ゾウに限りません。ウサギでも蝶でも、イワシでも、スズメでも、いえ菊でも、竹でも、松の木でも、数限りない生き物がみんな、それぞれの個性を持たされて違う生き物として生かされていることは何とも素晴らしいことです。もちろん、その中の一員として人間が人間として生かされているのも本当に素晴らしいことです。」「世の中に生きるものはすべて、たったひとつの存在です。そのものが、そのものであるということ。それだけで、ありがたく、うれしく、尊いことです」「自分はこの世に生かされているのだという誇り。他とは違うからこそ、うれしいのです。」



まどさんは私たち、篠ノ井西中学校にもメッセージを送ってくれています。それが「篠ノ井西中生の君たちへ」というこの詩です。

「篠ノ井西中生の君たちへ」

君たちよ／日本人であるまえに／地球人であれ／地球人であるまえに／宇宙人であれ
それこそ／真の日本人なのだ （95.10.17）

みなさんは、この詩をどんなふう to 受け止めますか？

